

スーパーヒーロー大戦

夏草香

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

あらゆる世界が混ざった複合世界

そこでヒーローたちは何を見て何を感じるのか

作者は戦闘シーンを書くのは初めてなので過度な期待はしないで下さい

序章 予告

未知の敵

目

次

予告

とある少年の日記「一部」

??月??日

晴

弱い僕は憧れた

例えば

自分の目的のためならどんな奴も殺す少女に

例えば

仲間の為に死ぬ気で戦う少年に

例えば

友達と絶望を乗り越えた少女に

例えば

好きな子のために命を張る少年に

例えば

ヒーローになろうともがいている少年に

例えば

いざとなつたら頼り甲斐のある少年に

例えば

人間を助ける優しい魔王に

例えば

真剣に生徒に向き合う少年に

例えば

自分を曲げない少年に

例えば

目的に向かつて突き進む少女に

例えば

心優しい少女に

生きるために戦う少年に

例えば

信念を貫き通す少女に

例えば

約束を守るために化け物になつた少年に

例えば

友達を守る為に戦う少女に

そう僕は主人公になりたい

誰かを守つてあげれるような主人公に……

そんな日記を書いた数年後

僕は世界を改造した

あらゆる世界のヒーローたちを呼び寄せて

そして新たな世界が生まれた

色んなモノが混ざり合つた複合世界に

さあ始めようヒーローたち

これから始まるのは君たちの鎮魂歌

これでようやく夢が叶う

どんな夢かつて？

それは

主人公になるつて夢だよ

ー参戦作品ー

つぎ：だーれだつ！

世界鬼

オレが・・・オレがボンゴレをぶつ壊してやる!!!

家庭教師ヒットマンリボーン

もう諦めない、捨てたりしない、屈したりしない、絶望なんかしな

い！

絶対絶望少女

先輩、私は普通の人間に見えますか？

境界の彼方

困った時は笑顔だよ！

クオリディアコード

ステイール！

この素晴らしい世界に祝福を！

俺はこの日本で正社員になる！
はたらく魔王さま

言わなかつたか？お前はとつぐに俺の術中に嵌つてたんだつてな
空戦魔導士候補生の教官

強い人は弱い人をお守りするんだゾ
クレヨン shinちゃん

ドロンボーがいる限りこの世にヤツターマンは栄えない！
夜ノヤツターマン

私、堪忍袋の尾が切れました！
ハートキヤツチプリキュア

計ちゃん、悟空やケンシロウなんかよりかっけーよ

GANTZ

なせば大抵なんとかなる！

結城友奈は勇者である

だから僕は行くんだよ。これ以上大事な人を不幸にしない為に

charlottto

誰のためでもない、自分自身の祈りのために、戦い続けるのよ

魔法少女まどか★マギカ

元々関係を持たず進行するはずだつたヒーロー達の物語

それがある日強制的に繋げられてしまつた

そして複合世界が出来上がつた

複合世界新たな戦いの火蓋を切りヒーローたちに襲いかかる

ヒーローたちは戦いの果てに何を見て何を感じるのか

そしてこの世界が出来た謎を解き明かせるだろうか

スーパーヒーロー大戦

――――――――その夢は悪か善か

序章 未知の敵

序章

1 未知の敵

東京中央議会

東京中央議会の廊下を2人の男女が歩いていた。

「下らんな」

「もーいっちゃんたらー」

2人の名前は朱雀一弥と宇多良カナリア。

防衛首都東京の主席と次席である。

今日は同時期に東京と千葉の主席と次席が変わった為、三都市の顔合わせが行われることとなつた。

「今はこの様な事に時間を使うのでは無く訓練と調査に時間を掛けるのが合理的だろ」

「それもそうかもしれないけど。それでも仲間との交流は大切だとお姉ちゃんは思うわけだよ」

「弟扱いは止める。今じゃ同一年だろうが」

「むーもう少し早くコールドスリープから目が覚めてたらお姉ちゃんのままだつたのにー」

――――

コールドスリープ

30年前に現れたアンノウンから子供を守る為、子供たちを安全な場所で成長を止めたままアンノウンとの戦争が終わるまで寝かせていたこと。

――――

カナリアはコールドスリープ前は朱雀よりも年上だつたのだが朱雀よりも後に目覚めた為に2人とも同一年になつてしまつたのだ。

「まあ仕方ないか。急ぐぞカナリア」

「了解！」

「(どんな奴が仲間になるうと関係ない。俺だけいれば十分だ)」

朱雀はそう思いながら立ち止まり、外を見た。

半年前まではここから埼玉の方が少し見えていた。だが今では大きな壁によつて見えなくなつてている。

半年前に突如現れた大きな壁。

それは防衛都市をすっぽりと囲み三都市からでれなくなつていたのだ。

海の方から越えようとすればちよど侵入禁止区域に入つており、壁を乗り越えようとすればある程度のところで透明な壁に阻まれて壁の向こう側はどうなつてているのか全く分からぬのだ。

この壁についても調査を進めていきたいのが上の考えなのだがアンノウンの襲撃もある為全く調査が出来ていらないのが現状だ。

「いつちゃんいくよー」

「分かった」

会議室

「おーやつときたね～」

「遅いぞ」

そこで待つっていたのは神奈川の主席と次席、天河舞姫と凜堂ほたるだ。

「すいませーん」

「でもまだ千葉の奴らが来てないようだが」

「それでもだ。14時が集合の時間だつたはず。それならその時間までに来るのが普通だ」

「(この2人が神奈川の主席と次席か。主席は前から知つてはいたが次席は初めて見る顔だ。どうやら変わつていたみたいだな)」「それじや千葉の人たちが来るまでのんびり待とつか」

天河がそう言つた時それは起こつた。

ゴゴゴゴゴゴゴゴゴ

「つ！なんだこの音は」

「アンノウンの襲撃？」

「違う！外を見ろ」

4人の眼の前で有り得ない事が起こつたのだ。

半年間壊れもせず存在していた壁が地面の中へと消えていったのだ。